

鶏とて、のどの下頬にも毛のはへたるもあり、これを懿と云、矮鶏。總羽の色好も處を記す

いこう黒までは頬の通りとさか此二品の黒は老鳥に成候ても、首に油毛の羽出す、

白毛、碁石猩々是には三品有、こい猩々、薄毛猩々をかけた桂尾是は白に尾羽黒きを云、是に首にさし尾あるは悪し、但しとさかに二品有、尾是は尾を卷さ丸羽是は尾のつけねと、首の羽な鶏は下谷坂本に鬪鶏の會あり、

鈴波碁石のかは總羽白黒の波淺黃耳白はく輪耳菖蒲尾爪但しあしをなんきん筋と云、車

〔武江產物志〕山鳥類は鶏ちは下谷坂本に鬪鶏の會あり、

〔甲子夜話三〕岸和田ノ岡部氏、今ノ三四代モ前ノ主殊ノ外鶏ヲ好テ數百番畜養セリ、ソノ内ヨリ翎毛ノ常ト替リシモ往々出シトゾ、世ニ玩ブ淺黃矮雞ト云々、驥素色ナルモノハ、其家ヨリ新生ゼシ種子ニテ、別ニ一種ヲ成シ、今ハイヅ方ニモアルヤウニナリタルナリ、

〔日本書紀二十九〕四年正月壬戌、是日大倭國貢瑞雞、五年四月辛丑、倭國添下郡鰐積吉事貢瑞雞、

其冠似海石榴華、

には鳥は人家に必なくて叶はぬ物なり、鶏犬の二色は田舎に殊に畜置べし、是大小色々あり、唐丸とて甚大きあり、近來玄やむと云て一種あり、是又大なり、是皆體おもくして、高き所に上りかねて、狐狸にそこなはる、ゆへ、雛も生立がたし、時を作る事も正しからず、唯中鶏の毛のあかき脚の黄なるをかふべし、又雌鳥はかたちさのみふとからず、毛淺くて脚細く短きが、卵を多くうみて、雛をよく生立る物なり、又雄鳥は聲の小きは子少なし、黒き鶏、頭の白き、六指のもの四距のもの、死して足の申ざるもの、皆人を害すとあり、料理をするに心を用ゆべし、又五歳以下の小兒